



U-22プログラミング・コンテスト
公式Webサイト>>><https://www.u22procon.com/>

Diamond Sponsor : SOMPOシステムズ株式会社 / 株式会社デジタルガレージ

発行 : U-22プログラミング・コンテスト運営事務局

1 U-22プログラミング・コンテスト2020開催決定！

このたび、U-22プログラミング・コンテスト実行委員会は、第41回目となるU-22プログラミング・コンテスト2020を開催することを決定いたしました！

昨年行ったProgrammer's Dayも併催を予定しています。
コンテスト後のステップアップとして、未踏事業やスタートアップ支援など様々な道もご用意しています。

U-22プログラミング・コンテスト2020の詳細は【2020年4月頃】に公開予定です。

初めて挑戦しようと思う方はもちろん、惜しくも審査通過には至らなかった方、受賞経験はあるけれどももう一度挑戦したい方など、様々な皆様からのご応募、お待ちしております。

2 U-22プログラミング・コンテスト2019レポート・全応募作品名を公開

U-22プログラミング・コンテスト2019最終審査会や表彰式、会社見学のレポートをはじめご応募いただいた応募作品名を公開しましたので是非ご覧ください。

- ・作品概要・評価ポイント
<https://u22procon.com/report/>
- ・最終審査会の様子
<https://u22procon.com/report/final.html>
- ・経済産業省における表彰式
<https://u22procon.com/report/ceremony.html>
- ・会社見学会
<https://u22procon.com/report/companytour.html>
- ・応募作品一覧
<https://u22procon.com/report/all.html>

3 U-22プログラミング・コンテスト2019受賞者コメント

U-22プログラミング・コンテスト2019では受賞者からのコメントをいただいています。

本メルマガでは、代表して経済産業大臣賞受賞者のコメントを紹介します。

▼経済産業大臣賞（総合） 上原 直人さん

経済産業大臣賞並びにBoys and Girls, be ambitious!賞、サイボウズ賞、Best Viewers賞を受賞できたこと、大変嬉しく思います。

コンテストに作品を提出するという事は、自分の開発しているものを他の方へ今回は審査員の皆様方へに見ていただける状態にまでブラッシュアップするという事であり、中途半端な形で終わってしまいがちな個人開発においてもモチベーションを高く維持しつつ開発を進めていくことができ、大変素晴らしい経験となりました。

また、審査員の方々に頂いたコメントも非常に励みになりました。以降の開発の参考とさせていただきますと思います。

最後に、コンテストへの参加を検討している方へ。

このコンテストへの参加は、各界の専門家である審査員の方々からコメントをいただいたり、非常にレベルの高い他の参加者の方達の作品についての発表を見られたりといった貴重な経験をできる機会となります。非常に有意義な経験になると思うので、興味のある方は是非応募してみることをお勧めします。

▼経済産業大臣賞（プロダクト） 眞部 智也さん

経済産業大臣賞という素晴らしい評価をいただき大変光栄です。今回の制作の大きな目標の一つとして、最終審査に入選することがあったのですが、それを越えて最高賞をいただくことができ、とても嬉しく思っています。

今回の作品は、在学中にずっと考えていた「自分らしいゲームを作りたい」という思いが起点になっています。就職活動が終わり、チーム制作も一段落して「本当に作りたいもの」を作ることができるのは今だけなんじゃないかと思いつき、制作を始めました。シェーダーでの演出やコースエディットなど、私がかっこいい、やりたいと思ったものを積極的に取り入れています。

最終審査会では、自分のプレゼンが迫るととても緊張し手が震えるほどでしたが、直前の方のプレゼンがとても興味深く自然に聞き入っていて、気が付くと震えも収まっていました。そのおかげで壇上では作品のこだわりや意図をしっかりと伝えられ、練習も含めて一番良いプレゼンができたという実感があります。

私にとってのU-22プログラミング・コンテストは、制作の期間も含め、忘れられない体験の連続でした。もし、応募しようと悩んでいる方がいたら、是非応募してほしいと背中を押したいです。他の入選者の思いを直に感じられ、また形式を問わず「自分のこだわり」を多くの方に評価してもらえるこのコンテストは、最高の舞台です。

▼経済産業大臣賞（テクノロジー） 大門 巧さん

最終審査会では、どの作品もレベルが高く、他の作品から学ぶこともたくさんありました。この度は経済産業大臣賞を受賞することができ大変光栄に思っています。教育現場において、自分の開発したようなツールが本当に必要な時代になるのだと感じました。

私は、自分の開発した処理系が、プログラミング教育が本格的に始まろうとしている現在において、どこまで評価されるかチャレンジしたいと思い、コンテストに応募しました。教育現場での使用を想定した言語処理系なので、ユーザビリティや充実した支援機能を追求するために、パーサからユーザーインターフェースまで、フルスクラッチでの開発にこだわりました。たった1人で開発は苦しい時期もありましたが、完成した時には大きな達成感を味わうことができました。

私は高校の情報教員を目指しています。プログラミングの力で高校の情報の授業をより良いものにしたいという思いがあります。Tetraのような自作プログラムで生徒を楽しませることができるような先生になりたいです。

コンテストに応募するべきか迷っている皆さん、プログラマーは“表現者”です。あなたの書いたコードや作品には、あなたの思いや考えがたくさん詰まっているはず。それらを表現する機会としてU-22プログラミング・コンテストを選んでみてはどうでしょうか。

▼経済産業大臣賞（アイデア） 富田 晴生さん

経済産業大臣賞のアイデア部門を受賞することができてうれしかったです。

ここまで来られるとは思っていませんでした。作品を作っていて楽しかった点はゲームを作りながら元素について詳しく知ることができたことです。難しかった点はバグがなかなか直せなくて困ったことです。プログラムが難しいゲームを作るのは初めてだったので、応募ができて良かったです。

プログラミングをしていないときは、いろんな場所に出かけるのが好きです。科学系イベントへ遊びに行ったり、プラネタリウムや博物館へ行ったりしています。科学や宇宙のことがとても好きなので、将来は天文学者になればいいなと思っています。最近は持続可能な開発目標（SDGS）も目標にしたいと思いました。どちらもプログラミングが活かせるようなので、もっと詳しくなりたいです。

もし、コンテストに応募してみようと思っているのなら、目標を立てて好きなテーマで自由に作ることが一番大切だと思います。最初は失敗するかもしれませんが、何度も挑戦することが大事です。

その他の受賞者コメントは以下リンクを参照ください。
<https://u22procon.com/report/comment.html>

4 U-22プログラミング・コンテスト2019審査委員コメント

U-22プログラミング・コンテスト2019終了後、審査委員からも今回の審査の感想をいただきましたので一部をご紹介します。

▼実行委員長 青野 慶久（サイボウズ株式会社 代表取締役社長）

今回は、今までの伝統を打ち破る大幅な賞金アップと厳しい併願禁止ルールの導入で、何が起きるか不安でしたが、ふたを開けてみれば前回と同等の応募数。多数のご応募を誠にありがとうございました！今回もJJPCと連携し、小学校から中・高・大学、そして未踏プロジェクトや翌日の企業訪問まで、プログラマーとして可能性を広げていく道筋をお見せできたのではないかと思います。印象に残ったのはスーパー中学生の登場と、一人ひとりの個性的なアイデアの表現。来年もユニークな作品を楽しみにしています！

▼実行委員 浦川 伸一（損害保険ジャパン日本興亜株式会社 取締役 常務執行役員 SOMPOシステムズ株式会社 代表取締役社長）

令和の時代は、デジタル技術の急速な進展に支えられて社会や産業構造の変革がリードされていきます。若い世代に、そのベースともいえるプログラミングに大いに興味を持っていただき、ゲームなどのアミューズメントにとどまらず、金融やその他の社会インフラにも興味を持っていただけることを期待して、当社は本年度初めてスポンサーに参画することとしました。

そして応募作品とそのプレゼンテーションを拝見して、発想力や課題設定力、それに対する技術的な解決力はわたしたちの想像をはるかに超えるものであり、感銘を受けました。

参加された皆さんが、このコンテストを通じて、当初実現したいと思っていたことがどの程度実現できるのか、あるいはできたのか、強い知的好奇心を持ってこれからも取り組まれることを願っています。そして、プログラミングがこんなにも楽しいものなんだ、ということが実感できたら、是非多くの人たちにその思いを伝えてみてほしいと思います。

▼実行委員 佐々木 智也（株式会社デジタルガレージ 執行役員 社長室長 / インキュベーション担当 オープンネットワークラボ推進部長）

今年度より実行委員として参加させて頂きましたが、作品への情熱や質の高さに感動しました。

ゲーム作品はもちろん、ゲーム以外にもとても実用的なソリューションやサービス、そして言語まで、バラエティーに富んだ作品で最終審査会はあっという間に終わってしまった感があります。

デジタルガレージが支援するスタートアップは、Who誰の、Pain課題を、Solution解決する、Alternative既存の代替品は？Timingなぜ今、Market市場規模は？Whyあなたがやる意味は？7項目に明確に答えられるチームです。

今取り組まれているプログラミングをベースに、受賞者の方はもちろんご応募いただいたみなさんがいつの日か世の中の課題を解決するサービスや作品を世に出してくれることを期待しています。



U22 プログラミング・コンテスト2019

▼審査委員長 筧 捷彦 (早稲田大学 名誉教授)

今年も U-22 の面目躍如たる作品が並びました。中でも、個の力をこれでもかと示す作品が目立ちました。経済産業大臣賞に輝いたのは全て個人の作品でした。その中でも総合でトップになったのが中学生によるプログラミング言語の設計・開発であったのが目を引きます。来年も、また、小学生から22歳までの力による秀でた作品の応募が続くことを期待しています。

その他委員コメントは以下リンクを参照ください。

<https://u22procon.com/report/committee.html>

--

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
U-22プログラミング・コンテスト運営事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-6 赤坂グレースビル4F
TEL : 03-6435-5991 FAX : 03-3560-8441 E-mail : u22-info@csaj.jp
公式Webサイト <http://www.u22procon.com/>
▼コンテストの最新情報はU-22メルマガで配信中!
<https://www.csaj.jp/u22mailmaga/index.php>